



見沼たんぼくらのイベント

第116回見沼塾 紅葉狩と粘着フィルム即席押し葉作り

第116回見沼塾は11月23日(金・祝)、北区見沼の見沼たんぼの北側に位置する芝川と見沼西縁に囲まれた「市民の森」で開催された。講師は小野達二先生であり、参加者は10名であった。

市民の森には多くの樹木があり四季折々の葉・花・実を楽しむことができるが、今回の見沼塾は公園に多くある落葉樹の紅葉・黄葉など(以下紅葉とする)の時期を狙った催しである。園内には52種程度



の紅葉する樹種が観察される。なお、紅葉の色素源は、アントシアニン(赤色)・カロチノイド(黄色)、また、その仕組みについては紙面の関係で省略する。

まず、グリーンセンター2階の中会議場で、紅葉の概要の説明の後、園内にある美しく紅葉した木本(イロハモミジ・ハゼノキなど)を探し、お気に入りの葉を採取し、再び会議室に戻り押し葉づくりを開始する。「粘着フィルム即席押し葉づくり」は台紙に板目表紙を使用して、押し葉とする紅葉した葉を粘

着フィルムの表面に、表示する葉面を粘着面に置き、台紙の板目表紙の表面に空気を丁寧に抜き張り付ける。押し葉となる葉は薄く美しい色合いの凹凸の少ない乾いたものが相応しい。作業は空気を抜くのが意外と難しく、試行錯誤の末、各自見本に近い作品を作成していた。完成された作品が美しい色彩を長く残ることに期待する。
(若野 忠男記)

斜面林の体験学習—熊手を使って落葉かき

2018年12月9日(日)午前、見沼たんぼ地域最大の斜面林「大和田緑地公園特別緑地保全地区」に男女20名のボランティアが集まった。来る途中は厳しい寒気に震えたが、森に入ると寒気が収まりほっとした。

林道と南部雑木林の林床に積もり積もった落ち葉を熊手を使ってかき集め、大袋に入れて、堆肥小屋まで運ぶ。霜が降りないように一皮ほど落葉を残した。

当緑地は、さいたま市みどり愛護会大和田支部のメンバーが毎月1回以上保全活動に取り組んでいる。下草刈り、間伐、捕植、落葉かき等々。

暗くなく、明るくなく、木洩れ日が林床に届く程度である。

この森は、25年前は、暗い自然林に遷移をはじめ、花が少ないから、昆虫が去り、実が少ないから小鳥が去った。それから森のボランティアによって、生き物の楽園によみがえり、林床にお花畑が広がり、



CO₂を大量に吸収する環境保全林として大きな役割を果たしている。

(小野 達二記)

見沼たんぼくらのイベント

見沼塾「見沼たんぼの野鳥観察 小峯 昇

今日は立春、暖かい日差しに恵まれ 35 名の方が参加されました。初めての方も多かったので、まずは身近なカラスについての説明から入りました。鳴き声でハシブトガラストハシボソガラスを聞き分けられること、両種の生態的な違いなどをお話しして、スタートです。

大和田プールではカモが 1 羽お休み中です、配布した写真資料を見てもらい、茶色い頭が特徴なホシハジロの雄であることを紹介しました。

芝川ではオオバンが 2 羽泳いでいます、その奥にバンも出てきました。確かに、並ぶと大きさの違いがわかりますね。きれいな羽色をしたハシビ



カワセミに見入る

ロガモの雄も 2 羽浮かんでいましたが、ちょっと目つきが悪いのが玉に瑕ですよね。

石橋に来たところ、橋のすぐ下にカワセミがとまりました。カワセミを間近でじっくり見ることができて皆さん大喜びです。

ここで、ゆっくりしたので大和田緑地には寄らずに、まっすぐ川を下ることにしました。ポカポカ陽気のなか、ヒドリガモの群れを見て、セグロセキレイを見ていると、上空をダイサギが、続い



オオブタクサにとまったカワセミ

てコサギが通過しました。

境橋の手前、ゴイサギのねぐらになっている常緑樹には、幼鳥が 1 羽眠そうな目をしてこちらを

見ていましたが、そのうちに頭をうずめて、熟睡体制になりました。

ジョウビタキがいたとの声を聞き、周囲を見回していると、お腹が茶色い鳥が川の中にある枯れ



やや眠そうだったゴイサギ幼鳥

枝にとまりました、双眼鏡を向けるとカワセミです。今度は雌でした。今度もじっくり見ることができました。そのカワセミの直下に、冬に時々見られるキセキレイも飛んできました。

第 3 公園の池では、ヨシの根元でお休み中のヒドリガモとコガモが見られました。ここにもカワセミが出てきました。こんなに何度も、そしてゆ



再びカワセミ登場、今度は雌です

っくりとカワセミが見られることはそうそうありませんね。あずまやで、出てきた鳥を確認して解散になりました。

観察された鳥 ウグイス、オオバン、カルガモ、カワウ、カワセミ、カワラヒワ、キジバト、キセキレイ、ゴイサギ、コガモ、コゲラ、コサギ、シジュウカラ、ジョウビタキ、スズメ、セグロセキレイ、ダイサギ、ツグミ、ハクセキレイ、ハシビロガモ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、バン、ヒドリガモ、ヒヨドリ、ホオジロ、ホシハジロ、マガモ、ムクドリ、メジロ、モズ、 31 種

(小峯 昇記)

見沼たんぼ地域の会員関係イベント

見沼スケッチ会展 開催される

八木一郎先生の主宰される見沼スケッチ会の展覧会が、2月19日(火)から2月24日(日)までの間、大宮図書館1階の展示室で行われました。

当会は平成19年(2007)、「見沼を愛するスケッチの同好者」の皆さまによりまして設立され、八木先生のご指導を仰ぎながら、今日に及んでおります。当スケッチ会の展覧会は、毎年、2月の末から3月に掛けて開催されますが、今回で12回目を迎えるに至りました。

受付を経て展示室の前に進むと、展示ボード上にきちんと一列に並んだ作品が、無言のうちに私たち閲覧者を「どうぞ、ご覧になってください・・・」とばかりに招き入れるのです。並べられたそれぞれの作品が不思議な力を持っているのです。

黄色一色に染まった公園の樹木、歴史を静かに伝える神社の本殿、長いこと住んでいた古民家・・・など、会員皆様が力を振り絞って描かれた作品ばかりです。82点の作品が展示されてお



りましたが、いずれもが12年もの長い間、水彩画の勉強をしてこられたという自信に溢れた秀品ばかりです。

淡く描き上げた作品、強めの色合いで描きあげた作品・・・等々、色の使い方にその人なりの性格が現れており、その人なりの素晴らしさを加えて描き上げているのに、とても感心してしまいました。
(召田 紀雄記)

雑木林体験・保全作業&

シイタケの種ごま打ち

2月23日(土)午前9時半から概ね2時間を要して恒例の標記イベントが、さいたま市みどり愛護会主催で大和田緑地公園・特別緑地保全地区(さいたま市見沼区)において開催された。同会はさいたま市所有又は借地による緑地公園の管理・保全を行うボランティア団体である。参加者の対象はさいたま市の公募者・当会員・ドングリ里親協力者であり総勢65名(うち子供7名)である。

「初めの集い」の主催者の挨拶・作業手順など



の説明の後作業に入る。前半作業は緑地公園北部

地区斜面林の落葉掻きである。林床に積もったコナラなどの落葉樹の落葉を熊手で掻き集め運搬用具で所定の集積所に運び込む作業である。参加者相互の連携で効率よく作業は進行する。初体験の子供達は要領よく熊手作業・集積所の落葉踏み込み作業には腰まで埋まって夢中になる。作業休憩時の程よい木漏れ陽のものと会長・支部長による当公園の自然などの講話は判り易い青空教室に早変わり。

後半は多目的広場でシイタケの種ごま打ち作業となる。シートに緑地公園でのコナラなどの間伐材によるシイタケ櫓木にドリルで穴が開けられ積み込まれている。作業手順の説明の後作業開始となるが、特に一生懸命種ごまを小槌で打つ子供達の姿は微笑ましい。参加者には仕上げられたかなり重いシイタケ櫓木を持帰り頂くが、家庭内での管理に関しては説明書の配布・これまでの収穫写真による解説がなされた。それに対する活発な質疑応答も交わされる。家庭内での栽培管理の基本は「愛情です！」の助言があった。

(若野 忠男記)

見沼たんぼ水彩スケッチ紀行

絵と解説 八木一郎

木曾呂の富士塚（川口市東内野）

当地は為永翁によって開発された見沼新田の一つ。開発以前に行われていた氷川女体社の御船祭り（隔年行事9月8日）の御旅所が置かれてところ。

この富士塚は木曾呂浅間と呼ばれ、寛政12年蓮見知重により、たてられた、高さ5.4m直径20m、県内最古の貴重な史跡。



大宮氷川神社の「蛇の池」（大宮区 高鼻）

さいたま市周辺では江戸時代、湧き水にまつわる逸話が多く残っている。

2千年以上の歴史を有する氷川神社の楼門の西奥にある「蛇の池」は、境内の神池やその先に広がる見沼一帯の水源の一つで、現在でも地中深くから水が湧き出でている。

この神秘的な湧き水があった為にこの地に氷川神社が鎮座したとも伝えられ、氷川神社発祥の地と云われる。

古来、蛇は水神の化身ともいわれ水を治める神とされているが、記紀神話によれば、その大蛇（ヤマタノオロチ）は出雲の簸の川（ヒノカワ）に住み、頭尾はおのおの八つに分かれていた。御祭神の須佐乃男尊はこれを退治して奇稻田姫（クシナダヒメ）を救い、尾を割いて天叢雲剣（アマムラクモノツルギ）を得たと伝えられる。



七里自然公園（見沼区 大谷）

人と自然とのふれあいを目的として2000年(平成12年)開設。

南北に長く、東側は見沼代用水東縁が流れ、西側は加田屋川を挟んで 野球場などの環境広場が広がる。

親水、自然観察ゾーン、修景地、カモ保護ゾーンなどがあって地域の人々の癒しの場として親しまれている。



見沼たんぼくらぶ会員作品展

陽なたぼっこ（見沼自然公園）

作者 小松 武弘



毎月参加している見沼スケッチ会も11月に入るとかなり寒い。緑豊かな見沼自然公園もそろそろ冬支度にとりかかり始めた。

この日、すっきりと晴れ渡った青空のもと、水鳥達も寒いのか、一斉に池から上がって芝生の上で陽なたぼっこ。なんとお行儀のよいことか、一列になって大行進。ゆったりとした動作がとても可愛い。

刻々と変わる水辺の表情をどう描くのか、迷いながら筆を動かした一枚です。

見沼たんぼ探訪記

深井家長屋門を訪れる

江戸時代、長屋門は諸大名の武家屋敷門として誕生し門の両側部分に門番の部屋を置き、家臣や使用人の居所に使用されました。また、苗字帯刀を許された富裕な農家や庄屋の家屋敷に、さらに明治以降は富農の家屋敷にも造られるようになりました。このような門では門の両側部分は使用人の住居、納屋、作業所等に利用されたそうです。

見沼区上野田地区には、平成4年、市指定有形文化財に指定された、「深井家長屋門」が現存しているので、2月の晴れた日に見学に行く。この門は江戸時代後期の弘化元年（1844）に建立されたといい桁行が21.20m、そして梁行が5.46m、茅葺寄棟造りの門です。門の中央部には「立ち隠れ」が有り、半間ほど下がって門構えが有ります。

堅固に造られた門構えには、両開きの扉が付けられてあり、これらが一体となって長屋門を形成しているのです。長屋門は、その家の格式を備えているといいますが、深井家は江戸時代に、上野田村



の天領分の名主役を仰せ付かっていたそうです。この長屋門の前にしばらく立っていると、深井家の当時の活躍ぶりが静かに漂ってくるのでした。

市内に残る長屋門の中では江戸時代に建立されたものは少なく、その多くは屋根や壁などには修繕等による変更があるといわれております。こうした中で、深井家長屋門は建立年も明確であり、当初の姿を今に伝える名主屋敷の門として貴重な門とされております。

(召田 紀雄記)

井澤弥惣兵衛為永と萬年寺

萬年寺は永正6年（1509）、埼玉県入間郡越生町龍穩寺の末寺として建立された曹洞宗の名刹です。天正19年（1591）、徳川家康から寺領20石を拝領した古刹で、寺運は大いに隆盛。江戸時代初期の見沼溜井造成時に、寺域が水没したので伽藍を現在地に移したといわれています。

八代将軍吉宗による見沼代用水の開削工事において、井澤弥惣兵衛為永が工事事務所を当寺に設けました。この代用水というのは利根川の水を、



東縁と西縁の二つの用水路（延長約60km）を構築し、この周辺に新規の水田を切り開くという大掛かりなものでした。さらに、両者の中間にある「芝川」と

見沼代用水とを見沼通船堀によって結びつけたので、この地方と江戸との間の、水運による交易が活発に行われるようになりました。

本堂には、鎌倉時代中期の作風といわれる「木像釈迦如来像（さいたま市指定有形文化財）」があります。仏像様式により彫られ、藤原様式をも残している。その胎内には承応2年（1653）と墨書銘が記されているという。この事はその時代に本像が修理されたことが推察できる。

見沼代用水路沿線の通船関係者が、為永ゆかりの当寺に、弥惣兵衛の功績を讃えた「功德碑」を、山門を入った直ぐ左側に文化14年（1817）に建立し、事績を偲んでいます。

なお、本寺には幕末から明治に掛けて寺小屋が開設され、村の子弟の教育に当たっていました。

(召田 紀雄記)

見沼たんぼの仲間たちNo. 4 9

社会福祉法人 啓和会
多機能型障害者支援施設
久喜けいわ

- ・施設入所支援
- ・生活介護
- ・就労移行支援事業

新井 奈弓

社会福祉法人啓和会は知的障がいを持った子供の「親の想い」が原動力となって設立されました。「人間の尊重と地域社会との共生」が設立の理念です。ひとりひとりの可能性を見つけたい、そして自分らしく、その人らしい生活を築きながら、希望のある未来につなげたい。それは、障害をもたれたご本人や家族の願いです。そのための支援の実践が啓和会の役割です。

施設入所支援では.....



軽作業中心のグループと介護やリハビリ中心のグループに分かれ活動し、クラブ活

動、地域活動への参加等も行っています。

就労移行事業では.....



職業訓練、職場実習などを通して一般就労に結びつけられるように支援しています。

就労継続B型では.....

作業活動、職場実習、けいわ味噌販売などを



通じて、様々な形で仕事や社会参加をする機会を提供しています。

けいわ味噌について.....

自家栽培した大豆、地元産のお米と国産塩をもとに、丹精込めて仕込み、自然に任せてじっくりと熟成させた、味噌本来のコクと旨みがある、麴が生きた昔ながらの素朴な味噌です。現在、市内の学校給



食や大宮パレスホテルでの利用の他、様々なイベントでも販売を行っています。

けいわ餃子について.....

安心・安全にこだわって、国産の野菜と豚肉を材料にして作った生餃子を冷凍にして販売しております。また、地域のイベントでは焼餃子にして販売し、好評をいただいております。

【味噌・餃子販売の問い合わせ】

0480-22-6755 (直通)

またはホームページをご覧ください

見沼たんぼを支える農家さん

前田農場 前田史朗さん

見沼大橋のたもと近くにある前田史朗さんの畑をお訪ねしたのは、2月下旬。すべてを露地で栽培している畑では、日差しは春を感じさせるもののまだまだ冷たい風を受けながら、ほうれん草が緑の葉っぱを元気にのぼしていました。

新規就農された前田さんは、80歳までできる仕事として農業を選んだそうです。体力を考えて、60歳で退職。その後県の農業大学校をはじめとして、就農予備校や地元の農家さん主催の農業塾、



(前田史朗さん)

さらに小川町で有機農業の研修などを受け、4年前に農家資格を取得しました。現在は約2反の畑で育てた野菜をステラタウンや与野イオンの「わくわく広場」で販売、さらに配達できる範囲の希望者に宅配したり、見沼区の「みぬマルシェ」や県庁朝市などにも参加しています。

それまでは農業とは縁のない生活を送っていた前田さん。奥様はご実家が長野の農家で、家庭菜園などもされていましたが、前田さんはまるでノータッチだったそうです。農のある生活経験のない前田さんにとっては全てが初めてのことで、だらけでした。だから農業大学校で、種を蒔く時期や苗の植え付けなどについて、きちんと系統立てて学べたのは良かったといいます。

肥料には鶏糞、菜種油かす、牡蠣殻石灰、オカラ、米ぬかなどを使用。また、一口に雑草というけれど、草も取る所、取らなくてもいい所があるので、取るべきところだけを取り、その取った草も畑で無駄なく活用しています。農薬適正アドバ

イザーの資格も持っていますが、畑はすべて無農薬栽培です。

元々農家ではない就農者が困るのが、納屋などの作業場所がないこと、と聞くことが多いのですが、前田さんはマンション住まい。

どうしているのか聞いてみると、ちょうど一番隅の位置なので玄関前の通路やベランダを活用しているそうです。だから一回の収穫には、そこで処理できる量以上はとらないようにしているとの事で、玄関前で野菜を束ねたりしていると、近所の人が「何してるの？うちも欲しいわ。」などと会話が弾んだりするそうです。

まだまだ経験が乏しいから、作付計画に一番頭を悩ますと語る前田さん。



(季節の恵みがいっぱいのほうれん草)

宅配用にも少量多品種を目指していますが、自然に左右される畑ではそうそう思い通りの時に収穫できるとは限りません。だから「畑の気まぐれで」、とお客さんには了解してもらっています。

心に刻んでいるのが、小川町での師匠の「種を選べ、旬を食べろ、新鮮に届けろ」という言葉。もうしばらくすると、畑に春の賑わいが訪れます。

取材 : 島田由美子・高橋いずみ

文責 : 高橋いずみ

問い合わせ先 : 090-1464-4119

わくわく広場 ステラタウン大宮店 : 北区宮原町 1-854-1

Tel : 048-662-0831 10:00~21:00 定休日無

イオンモール与野店 : 中央区本町東 5-2-9

Tel:048-856-7142 9:00~22:00 定休日無

見沼たんぼくらのイベント案内

平成31年度見沼たんぼくらぶ総会

日時：4月20日（土）10時
会場：見沼グリーンセンター2F 中会議室
交通：JR 宇都宮線土呂駅東口から徒歩
約10分（見沼代用水西縁東側）

第77回見沼の自然と史跡を訪ねて

日時：4月20日（土）13時～16時
集合・解散地：市民の森正門
コース：市民の森（リスの家）…防風林
（クサイチゴ）…見沼3丁目田圃…
小島家長屋門…見沼公園（サトザクラ）
…神明社…市民の森正門
申込み：当日、集合地で12時30分から受
付
参加費：¥500（ただし、会員は無料）

見沼ふれあい農園づくり

<京芋・里芋・八つ頭・生姜>
1号地（緑区見沼610・613）
会員限定・申込制、無料（福祉施設にも寄贈）
スタッフが事前に耕し畝づくりを終え、植付・
除草・収穫の農作業です。

- ① 4月25日（木）種芋植付
- ② 5月23日（木）除草
- ③ 6月 3日（月）除草
- ④ 6月18日（火）除草
- ⑤ 7月 2日（火）除草
- ⑥ 7月 2日（火）除草
- ⑦ 9月 5日（木）除草

8時現地集合（7時30分から受付）
雨天順延

第78回見沼の自然と史跡を訪ねて

日時：5月19日（日）9時30分～12時
集合地：見沼自然公園休憩ロビー
解散地：旧坂東家住宅見沼くらしっく館
コース：見沼自然公園…深井家長屋門…
さぎ山記念公園…加田屋新田（ノアザミ）
…旧坂東家住宅 バス停「三崎台」
交通：大宮駅東口からバス⑦「締切橋」下車、
南側（乗車時間約30分）

第118回見沼塾

<大宮・浦和地区のサツマイモの歴史>
講師：織本 重道（大宮郷土史研究会会長）
日時：6月15日（土）10時
（会場の都合で1週間延期）
会場：見沼グリーンセンター2F 中会議室
参加費：無料
申込み：当日、会場で9時30分から受付

会員の主宰するイベント

見沼たんぼ緑地の自然観察会

主宰グループ：自然観察さいたまフレンド
<見沼田圃野の花&斜面林キンラン・ギンラン>
日時：4月27日（土）9時～12時
集合地：東武野田線大宮公園駅前
解散地：大宮公園
コース：大宮公園駅…見沼1丁目田圃…
大宮体育館…大和田緑地公園特別緑地保
全地区…大宮第二公園…大宮公園

会員の皆さんの寄稿をお願いします！

見沼たんぼ地域に関わること何でも OK
例えば、見沼たんぼを歩いて／〇〇行
事に参加して／見沼たんぼと私 etc,
紙面は原則として A4 判縦半分
ワープロ原稿送信、写真・イラスト望む
（問合せは事務局・小野まで）

見沼たんぼくらぶ会員募集中

（問合せは事務局・小野まで）

みぬま通信第78号

発行日 平成31年月4月1日
発行所 見沼たんぼくらぶ
〒337-0053 さいたま市見沼区大和田町
1-2124-3 小野方
TEL・FAX (048) 683-1764
E-mail t.ono@axel.ocn.ne.jp
URL <http://minumatanbo.web.fc2.com/>

© 2019 Minuma Tuusin